

平成28年7月7日

農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況（7月1日現在）

| 品 種 | 生 育 状 況 | | |
|-------|------------------------|-------|-------|
| | 項 目 | 28年 | 平年 |
| ななつぼし | 草丈 (cm) | 38.7 | 45.9 |
| | 葉数 (葉) | 8.1 | 8.6 |
| | 莖数 (本/m ²) | 325.0 | 465.8 |
| | 幼形期 | — | 7月4日 |
| | 遅速日数 | -3 | — |

6月下旬は低温と日照不足により、莖数はやや少なく経過しており、生育もやや遅れています。

幼穂形成期は平年7月4日になっていますが、今年は少し遅れています。

ただし、「ゆめびりか」の方が幼穂形成期になるのが早いので、品種ごとに幼穂を確認して、適正な水管理を行いましょう。

【技術対策】

○幼穂形成期からの水管理

- ・幼穂形成期後10日間（前歴期間）の水深10cm、平均水温25℃以上保つようにする。
分けつが少ない場合は、最初の5日間は5cmとし、その後10cmまで深水にする。
その後、約10日間（冷害危険期終了まで）の水深10cmから徐々に20cmまでにする。
※天候不順時の入水は、水温低下を招くので、かんがい溝と水田の水温差が比較的小さい夜間から早朝にかけて行い、水田の水温低下を少なくしましょう。

○幼穂形成期の追肥

- ・ケイ酸追肥で耐冷性を高め、不稔発生の軽減とタンパクを低下させる。

追肥時期：幼穂形成期7日後、ケイカル、ゆめシリカ等20kg/10a

○病害虫防除

- ・いもち病防除は、発生しそうな水田をよく観察し、水面施用剤で予防防除を行う。
- ・紋枯病は高温多湿になると発生するので、7月中旬頃に水際部を観察し、茎に灰色の円形状の病斑が広がってきたら防除する。
- ・イネドロオイムシ・フタオビコヤガは高温、多照が続くと発生しやすくなるので、葉が白くなるほどイネドロオイムシに食害されたり、葉がなくなるほどフタオビコヤガの食害がある、1株に幼虫が3～4匹見えたら防除する。

2. 畑作

(1)ばれいしょ

○疫病防除

20℃前後で湿度が高い状態で多発します。7日間隔で定期的の実施しましょう！

○軟腐病防除

高温多湿条件で多発します。夜ムシ暑くなったらの防除が必要です！

(2)秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定が可能です。ほ場を巡回し収穫順番を決定しましょう。

*赤かび病の発生したほ場は別刈とし、別々に乾燥調整作業を進めましょう。

(3)豆 類

開花の約20日前には、花芽分化が始まっています。断根をしないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合・初期生育が劣っている場合には追肥効果があります。

「追肥の時期と施肥量」

- | | | |
|-----|------------|---------|
| ・小豆 | 本葉3葉期～開花始め | 窒素 5 kg |
| ・大豆 | 開花始め | 窒素 5 kg |

3. 主要野菜の生育状況

| 作物名 | 生育状況 | 技術対策 |
|---|---|---|
| トマト ハウス桃太郎 桃太郎ギフト 桃太郎8 桃太郎セレクト | <ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬からの気象変動が大きいので生育は停滞気味で、樹勢の低下、上位葉の葉先枯れ症状や落花が見られる。 ・5月定植作型は1段目収穫始め。 ・6月定植作型の生育はやや平年並みに経過している。 ・アブラムシ類の発生、半身萎凋病、褐色根腐病、灰色かび病等が一部ほ場で見受けられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスビニールのこまめな開閉により適正な温度管理に努め、樹勢維持のために追肥とかん水量を調整する。 ・30℃以上では落花が多くなるので高温時には十分な換気を行う。 ・樹勢が弱い時、通常の追肥と同時に窒素主体の葉面散布を行う。 ・曇天後に急激に日射量が増加する場合等は、特に日やけ果の発生に注意すると共に遮光資材等を活用する。 ・アブラムシ類の防除対策として、ハウス周りの除草を行うと共に、発生確認後は早めに薬剤防除を行う。 ・灰色かび病や葉かび病対策は予防をかねてローテーション防除を行う。 |
| ハウス軟白ねぎ 初イトード等 | <ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類、ハモグリバエ類、タマネギバエが発生している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス周辺の除草を行う。 ・タマネギバエは高湿度条件下で産卵されるので降雨後は早めの薬剤防除を行う。 |
| アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウェルカム | <ul style="list-style-type: none"> ・斑点病、灰色かび病が一部で見られる。 ・アザミウマ類が発生している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。 ・ハウス内湿度を高めないよう換気に努める。 ・早期発見、早期防除を行う ・ハウス周辺の除草を行う。 |

* 日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

4. 牧草

一番草収穫後は速やかに追肥を行ってください。追肥は二番草収量のみでなく、草地の植生維持のためにも重要です。牧草は肥料切れに弱く、肥料切れを起こした牧草は枯死し、次年度の一番草収量低下や雑草をはびこらせる原因になります。牧草の色が極端に薄かったり、葉先が黄色や赤く変色している場合は肥料切れのサインです。追肥や堆肥散布を検討しましょう。

5. 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎病虫害・雑草の防除に使用する薬剤は、農林水産省が許可した薬剤だけです。

※容器に「農林水産省登録〇〇号」の記載があるので、必ず確認しましょう。

◎使い慣れた農薬であっても必ずラベルを確認しましょう。

- ・適用作物
- ・使用時期（収穫前日数）
- ・希釈倍数、量
- ・成分ごとの使用回数

◎農薬の飛散防止に努めましょう。

